はいせつはたいせつ

山のトイレ 協議会通信

山のトイレ・環境を考える 福岡協議会 ACTION!!

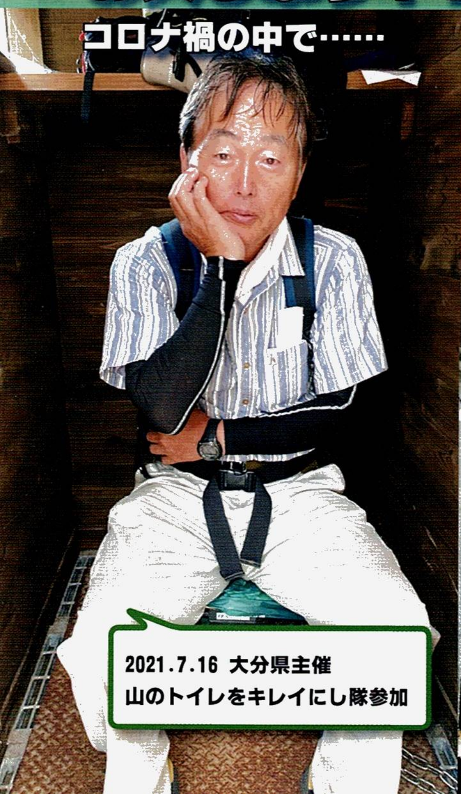
No.25
2022SPRING

山のトイレ、環境を考える福岡協議会通信
第25号 2022年6月1日号

2021.3.20 〜 21
くじゅう de 早春キャンプ

お久しぶり！ 2021年度活動報告

コロナ禍の中で……



2021.7.16 大分県主催
山のトイレをキレイにし隊参加

2021年度定期総会報告・活動報告●

山のトイレコレクション●

●山ピカ・各会の清掃活動報告

新・久住分かれ避難小屋 携帯トイレブース、出来上がりました !!!!

▲ 2021.7.16 雨の中で大分県の皆さんがトイレをキレイに！

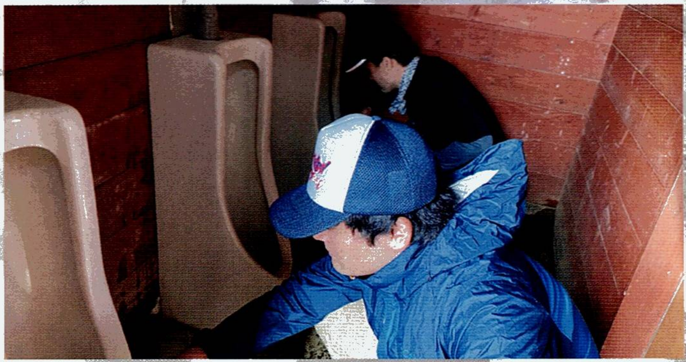
大分県自然保護推進室 山のトイレをキレイにし隊参加

令和２年１１月。ついに、久住分かれの避難小屋がリニューアルオープン、これにあわせて携帯トイレブースが新設されました。

当会では 2021 年７月１６日（金）、小雨が降りしきる中、大分県自然保護推進室主催の「山のトイレをキレイにし隊運動」に参加！

待望の久住分かれのトイレブースを視察してきました。

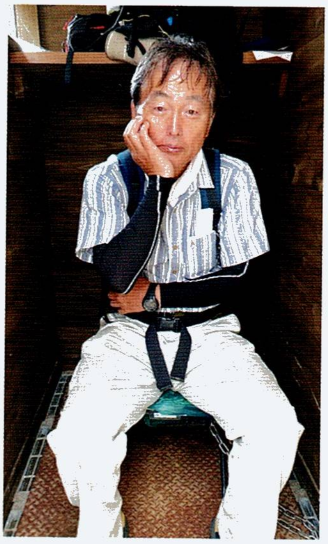
多額の予算と努力の末に出来上がった避難小屋は頑丈なつくりで、これでやっと登山者の万が一に備えることが出来るぞ！という感じ。中に入ってみるととてもキレイで木の匂いがしてとても快適な空間。これなら雨風がいくら強くも不安はないだろうという感じです。しかし、くじゅうの自然環境は厳しかった……



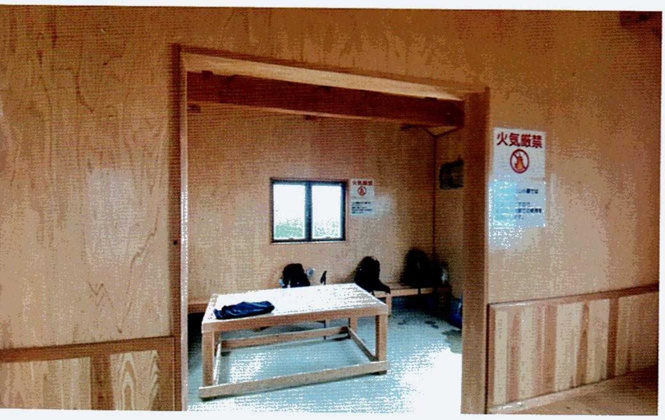
▲トイレを丁寧にキレイにしていきます　▼新しい避難小屋は立派です！

携帯トイレブース、ドアが五度破損!!

▲新・避難小屋と従来のバイオトイレ、その間にあるのが携帯トイレブース



▲この日、片側のブースのドアが破損して使用不能となっていた



▲避難小屋室内は風に耐えうる快適なつくり

運用初年度は苦労の連続
風で？ドアの破損が続く

避難小屋の横に設けられた携帯トイレブースは、一見では頑丈のように思えました。

ですが、実際に運用してみると、冬に雪が入口に堆積し、ドアが完全に締め切れない状態になったり、また、風によってドアが揺さぶられてちょうつがいが壊れてしまうようです。

運用初年度で、２０２１年１月・３月・９月と３回ドアが破損、その度に修理をし、改良を重ねたとのこと。22年５月にかけて２度ほど壊れ、合計５回ほど破損しているそうです。ドアを内開きにしたり、工夫はしたそうですが、まだまだ試行錯誤中とのこと。（大分県自然保護推進室談）

また携帯トイレの使用マナーが徹底されておらず、排泄物がポリ袋に入れて放置されているケースもあり、メンテナンスを務める明豊（めいほう）建設さんは、登山道・バイオトイレとあわせてこまめにメンテナンスを行っているそうです。当会では使用済みトイレの回収ボックス設置を呼びかけると共に、利用者のマナーアップにも務めていく所存です。　（酒井 記）

2021.3.20(土)→21(日)

くじゅうde早春キャンプ体験

法華院山荘とモンベルの協力で実現しました！

▲すがもり避難小屋で携帯トイレ講習。大西さん大満足です。

▲2020年の災害の爪痕をみながら雨の中進みます。

携帯トイレは大切だけれど、それだけじゃなかなかみんな興味を持ってくれない。だったら、キャンプといっしょにやったらいいんじゃない？ しかも冬に……。

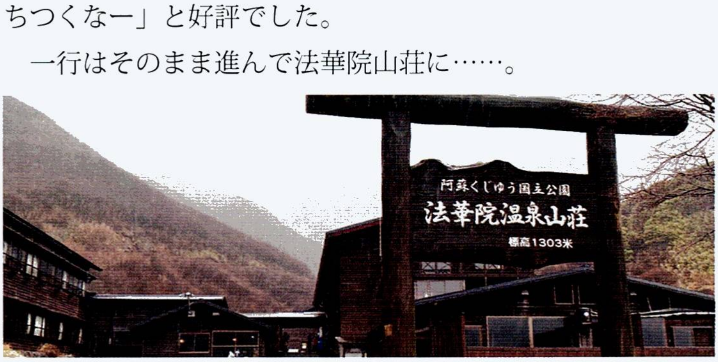
きっかけは2020年11月に「山のトイレをキレイにし隊運動」参加のため花山酔でみんなで会食をしたときでした。「やろうやろう」。法華院山荘のオーナーの弘藏さんがモンベルに声を掛けてくれ、当初2月に行う予定でいましたが緊急事態宣言で延期。急遽3月20日～21日の早春キャンプとして行う事となりました。

当日はあいにくの雨模様でかなり寒かったのですが、計12名でイベントを行いました。

8時半に長者原を出発し、大曲へ。幸い雨はそれほど激しくなく、岩場を越えたらすがもり避難小屋に。

ここで当会所有の携帯トイレブースを設置して、みなさんに携帯トイレ体験をしてもらいました。いざ入ってみると、ほどよく狭くなく、ほどよく広くなく、「なんだかおちつくなー」と好評でした。

一行はそのまま進んで法華院山荘に……。



▲法華院山荘前でに到着。ホッと一息です。

ちょっとつらい 雨と風の中のキャンプ体験

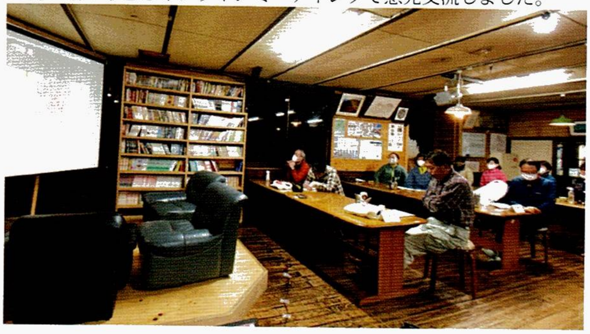
14時に法華院山荘に到着したら、キャンプ希望者はくじを引いてモンベルさんから提供された最新のキャンプギアを手にして、坊がつるにテントを張ります。

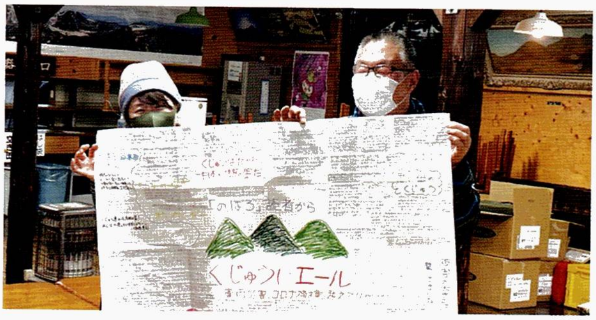
雨と風の中で当初予定したタープは張れず、かなり辛い設営となりました。ここで、本日テント泊をされない参加者は、続いて撤収までしたのですが、風も強く寒い中、つらい作業となってしまいました。みなさん大変な思いをされてしまったようで申し訳なく思っています。ともあれ、夜は法華院山荘の食堂で美味しいご飯にありつきました。

食後はオンラインミーティング。東京の携帯トイレメーカー高橋さん、大分県自然保護推進室の村山さんとオンラインで結んで、新鮮な議論の場となりました。

▲雨と風の中の設営は一苦労です。

▼晩ご飯のあとはオンラインミーティングで意見交流しました。





▲サプライズで、のぼろ読者からのエールの寄せ書きを贈呈

そしてサプライズ。のぼろ編集部の大西さんから、「くじゅうにエール」と題し、のぼろ読者の寄せ書きを法華院山荘オーナーに贈呈。コロナ禍は大変だと思いますが頑張って欲しいという皆の思いを届けました。

その後、キャンプ組はテントの中へ。いざ寝てみると、シュラフがあったかくて、雨の音がかえって気持ち良くてぐっすり。

翌日は雨が降りしきる中、立中山で火災の被害を確認してから、雨ヶ池経由で長者原へと下って解散。

初めてのイベントで、いろいろと不手際もありましたが、このイベントで6名の方が当会の会員になってくださいました。今後もこういった「携帯トイレはオマケ」的な「with 山のトイレ」イベントを開催し、山のトイレの普及に取り組んでいきます。（酒井 記）

▲翌日は立中山に登った後、長者原へと下っていきます。

山のトイレ・環境を考える福岡協議
令和２年度・第１３回定期総会【報告】

■コロナ禍をぬっての定期総会

令和２年度、山のトイレ・環境を考える福岡協議会、第１３回定期総会及び記念講演が令和３年８月１日（日）１３時より福岡健康づくりセンターあいれふ講堂で開催されました。議長に山上司氏が選出され、活動報告・令和３年度活動計画・令和３年度会計予算・会計監査報告・運営委員会開催報告があり、これらについて質疑応答の後、役員改正がなされ、議案は全て出席者全員の了承を得て成立しました。参加者は 15 名。これに、のぼろ編集部・大西さんを記念講演講師に迎え計 16 名でした。

■またしても、コロナ禍の中で…

本来、当会の総会は毎年７月に行われますが、昨年に続いて新型コロナウィルスの自粛により延期を余儀なくされました。記念講演は行いましたが懇親会は設定せず、結果、規模は縮小しましたが温かみのある内容となりました。

■次のステップへの１年

コロナ禍は出口は見えませんが、本年度は①ブログの活用②くじゅうのトイレ問題への取り組み③早春キャンプイベントなど、当会として次のステップを感じさせる取り組みがたくさんありました。

■総会で出された質疑

【質疑】(高井)大分県で開催される山の日において山のトイレ・環境を考える福岡協議会は何か活動の予定があるか？
【応答】(山上）検討したがコロナで見合わせた。大分県主催の式典・イベントも参加人数を絞っており、参加する余裕がなかった。理解頂きたい。(磯野)本件、議案３『山のトイレ普及イベントを開催』に含まれる内容だが、コロナ禍ゆえ慎重に行動した結果である。

【質疑】(磯野)山のトイレ感謝・支援活動について内容を教えて欲しい。
【応答】(山上)感謝の気持ちを伝える活動として位置づける。(酒井)例として城山を守る会などに参加し感謝の意を示す。労山・岳連などにも呼びかけたい。
【質疑】(磯野)活動についての周知は？
【応答】(酒井)ブログ、その他、直接呼びかけを行う。
【質疑】(荒木)その他として、山のトイレ通信にて報告と言うこともあるか？
【応答】(酒井)はい。(平田)先日、井原山の清掃活動について、オオキツネノカミソリを守る会に事情を聞いた。この会とも同調したい。(磯野)会員のみなさんスマホを活用し当会のＨＰを利用して欲しい。山のトイレコレクションを公開しているのでぜひ見て欲しい。(高井)水無山の活動は前述の会がが７月初旬に登山道メンテナンス・植物保全活動をしている、参加して欲しい。

【質疑】(磯野)くじゅうの回収ボックスの進展は？
【応答】(貞苅)進展なし。大分県は大分方式として持ち帰りが前提だが、当会は設置ありきで活動する。
【質疑】(高井)霧島の対応は？ 大分に転用できないか？
【応答】(貞苅・磯野)点検は環境省、回収は業者。大分は回収ボックスに使用済携帯トイレ以外のゴミが入ることを懸念している。しかし有料でも携帯トイレを回収するなど試行等をし前進をさせたい。

【質疑】(高井）(記念講演時）携帯トイレブースを購入されたとのことだが、どれくらいの費用か？災害の時に使えるか？
【応答】(酒井)ブースとシートで 15,070 円です。

■役員改選

当会の運営委員会の役員改選が行われました。
副会長に、法華院温泉山荘・弘藏氏が就任し、あらたな体制となりました。(酒井 記)

のぼろ編集部ってこぉ〜んな所です

記念講演

講師：大西 直人さん（のぼろ編集部）

総会終了後、政治記者として活躍、山の経験が全くなかった大西さんが、山専門雑誌「のぼろ編集部」に突如異動！いきなり山に登ることになった素直な気持ちや体験を楽しく記念講演して下さいました。ここでは講演の内容から少し紹介いたします。

のぼろ編集部員歴＝（イコール）登山歴

のぼろの編集歴は私の登山歴。登山が楽しいという心境には達していない。ある時から１人で登るのを止めた。山に詳しい人、読者の方と会話をしながら登っていると、知識がドンドン増えていくの感じている。でも今も登山は「きつい・苦しい・虫嫌い」と思います。

のぼろのいいところをアピール

のぼろは九州・山口に特化した唯一の山歩き雑誌。西日本新聞が撤退した南九州・山口の山も取り上げ、読者とつながっています。
本格登山にくわえ低山紹介も積極的！「高齢登山」「事故０登山」「山のトイレ」問題など、新聞記者の取材力が発揮されています。

二つの戸惑い。多くの発見！

2019年、編集部に配属されてから登山靴を買った。まず練習と四王寺山に登ったら足がつった。登山の何が楽しいのかと戸惑った。しかし、トイレ協議会を通じていろんな人とつながったこと、21年春号の「いとしのマイホームマウンテン」取材で読者さんと山に登ったことが転機となった。
雑誌は新聞と作り方が違うことも戸惑いだった。しかし、一度しかない記者人生で、いろいろなことが経験できることは良かったと考えている。

コロナ禍・編集長の悲報

のぼろは外部ライターさんを除くと十数人で作っています。季刊なので特集などは１年前から取材しますが、その間には思いもよらない出来事もあります。コロナ禍や編集長（当時）の事故死で詰めの取材ができなくなり、発行に黄信号が灯ったこともありました。

読者担当だからこその立場

私は読者のページ「山好きさん　いらっしゃい」も担当。編集部の事情よりも、次の号を楽しみに待つ読者が最優先と考えています。

- 1956年、島根県松江市生まれ。広島市育ち
- 1982年法政大卒業後、西日本新聞社入社
- 佐賀総局、本社都市圏部、社会部、東京支社報道部、本社地域報道部、編集企画委員会、鹿児島総局を経て、九州大学法学研究院の本紙寄付講座教授に出向。
- 東京支社論説委員にて定年。
- 再雇用後に、のぼろ編集部に配属。読者のページと「イベント情報」の担当と聞いていたが、登山から逃げることはできなかった。
- 講演後の2022年３月で退職。

■講演での質疑

【質疑】思い出の政治家は？
【応答】野中広務さん。選挙区とは無縁の地方紙記者も大切にしてくれました。山崎拓さんも印象深い。この人は政治家だと思いました。
【質疑】山に登っての失敗談は？
【応答】最初は足がよくつって、同僚にもあきれられた。道迷いもした。山口県・青海島の高山で携帯を落としたことも…。皆さんもいろいろ注意してください。

当会の活動記録

2021 かつどうきろく

■総会での第１号議案＋αです！
2020 年度も山のトイレ・環境を考える福岡協議会は様々な活動を行いました。ここでのご報告は総会での第１号議案でもありますが、改めて昨年度の活動＋αの情報を皆様にお伝えします。

■第 13 回定期総会及び講演会

2021.8.1（日）　福岡市健康づくりセンター あいれふ 10 階講堂にて、第 13 回定期総会を行いました。
16 名参加。2020 年度活動報告他、2021 年度の活動計画他、運営委員会報告、新役員改選が承認されました。続いて、西日本新聞社・のぼろ編集部・大西直人氏に「のぼろってこーんなところです」と題し、新聞記者の大西さんならではの視点から貴重な講演をいただきました。

■九重山域の自然環境保全に向けた取り組み

（1）九重山系の「山のトイレ問題」について署名を行った結果、
2021 年 11 月に久住分かれ避難小屋建て替えにともない、携帯トイレブースが新設されました。
大きな前進ですが、回収ボックスなどのリサイクルシステムが導入されておらず今後の課題として継続して取り組んでいきます。
(2) 山のトイレオンライン会議
2021 年 3 月 20 日 (土) の「くじゅう de 早春キャンプ体験」イベント中にて、法華院山荘にて「山のトイレオンライン会議」を開催しました。大分県自然保護推進室・村山さんと、綜合サービス・高橋さん、法華院山荘・弘藏氏を交え意見交換を行いました。

■山のトイレマナー及び環境保全に関する活動

2021.3.20(土) ~21（日）　法華院山荘、モンベルの協力のもと「くじゅう de 早春キャンプ体験」を開催し、新規会員の獲得を図ると共に、山のトイレの使用方法の講習など、普及活動を行いました。
2021.7.16(金)　大分県自然保護推進室主催「山のトイレをキレイにし隊」運動に参加しました。
※「夏山フェスタ」はコロナにともない中止となったため広報活動は中止となりました。

■清掃ハイク活動

2021 春期　各会とも、新型コロナウィルスによる緊急事態宣言のため中止となりました。
2021 秋期　福岡県勤労者山岳連盟主催 第 86 回「ふるさとの山県民清掃ハイク」
10.16・26、12.12 に各団体で実施。19 団体以上 155 名以上が合計約 100kg 以上のゴミを拾いました。
※その他の団体については新型コロナウィルスのため中止となりました。
2022 春期　福岡県勤労者山岳連盟主催 第 87 回「ふるさとの山県民清掃ハイク」
5.7・5.15・5.24 に各団体で実施。18 団体以上 280 名以上が合計約 470kg 以上のゴミを拾いました。
※その他の団体については新型コロナウィルスのため中止となりました。

■「山のトイレ協議会通信」発行

2022.6.1 発行　第 25 号 B5 版 12 ページ 200 部。 2021 年度の活動内容・総会報告など

■当会のホームページの継続更新

当会のブログを継続して更新しています

■「山の日」制定記念行事

大分県主催の山の日記念行事はコロナ禍と定員の都合上、やむをえず参加を取りやめました。

■トイレのメンテナンス活動

①福智山のバイオトイレの維持管理
②英彦山のバイオトイレの維持管理（筑豊山の会他、トイレ清掃協力 6 団体）

山のトイレの活動が またまた「のぼろ」に掲載されました

ちょっと自慢

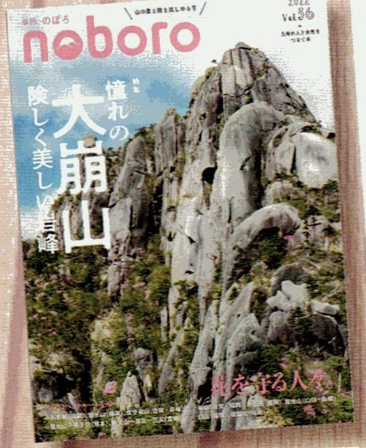
●当会も取材に全面協力

季刊のぼろ 2021 Vol.33

引き続き「山のトイレ」を考える。

バックナンバーは書店・Amazon で買えますが、
のぼろ編集部に直接お願いすることも出来ますよ！

問い合せ先　西日本新聞社　出版担当窓口 TEL092-711-5523
（受付時間　平日午前１０時～午後５時）



季刊のぼろ 2022 Vol.36

「山のトイレ問題」さらに考える。

当会にはオブザーバーとして西日本新聞社・のぼろ編集部員の大西氏が参加されています。（なお 2022 年 3 月で勇退されました）大西さんの尽力で山のトイレをめぐる現状・課題を取り上げた記事が、のぼろ本誌に掲載されました。当会も取材にちょっと協力しています。山のトイレ問題は地味な存在ですが、いろんなひとが関わっているんですね !!!!

みなさん、ぜひご覧下さい！

山をキレイにしとるとです

山ピカ

清掃・環境活動報告

ゴミを拾ったり、山のトイレを清掃・メンテナンスしたり、当会にかかわるみなさんの、地道だけれど大切な「山をピカピカにする活動」、略して山ピカ活動。今回は「英彦山のトイレ清掃」と「油山清掃ハイク」を紹介します。

●第 75 回英彦山トイレ清掃　2022.3.9(水)　田川かたつむり山の会

★清掃個所：３月９日 第1号機、第2号機 便器の点検、点検簿記入、

★その他：器機点検異常なし

第75回の英彦山トイレ清掃は2021年度最後の清掃日です、山頂 11 時集合で会員5名が参加しました。いつもの駐車場に 9 時到着、ボッカ道を歩きムスビ神社10時30分、井戸に立ち寄り清掃用の水を 1L 汲んで山頂に 10 時 50 分に到着しました、すでに4名が清掃活動を始めていました。

清掃終了後、軽い中食をとりました。本来ならば5名でゆっくりと英彦山を満喫したかったのですが、午後に会議が入り早急に下山しなければならず、山頂現地解散となりました。

各自、各方面で下りました。私はボッカ道を選択。ムスビ神社を少し下ったところから南側斜面を見ると、何と氷瀑が見えました。徳丸さん、宮成さんは時間があるので氷瀑の写真を撮りに行かれました。私は午後に用事があるので一人で下山、奉幣殿に１2時35分到着、第75回彦山トイレ清掃は終了しました。（写真・文 荒木 辰彦）

●油山清掃ハイク　2022.5.15 日曜日　あだると山の会

★収集ゴミ： 合計 9.39kg (可燃ゴミ 5.9kg 不燃ゴミ 3.49kg)

日 時： 2022 年 5 月 15 日（日）

参加者： 55 名（H5 名 W11 名 A I 21 名 A II 22 名）

コロナはまだまだ予断を許しませんが、それでもなんとか清掃ハイクが出来ました。
各コースわかれて、いろいろな方面から油山周辺のゴミを拾っていきます。
例年、登山道ではゴミを見つける方が大変だったという印象ですが、今年は結構ゴミが落ちていますね。コロナ禍で登山がちょっとした人気ということで、人通りが多いのでしょうか。
このごろ目立つのは「マスク」が捨てられていること。
町中でもゴミとしてはすごく目立つので、思わず拾ってしまいそうになるのですが、
もしかしてコロナがうつってしまっては!?などと考えて思わず躊躇してしまいます。
ゴミがたくさん拾えるのはちょっとうれしいけれど、
それだけ登山道が汚れているということですから、
喜んでいいのやら、悲しんでいいのやら……。

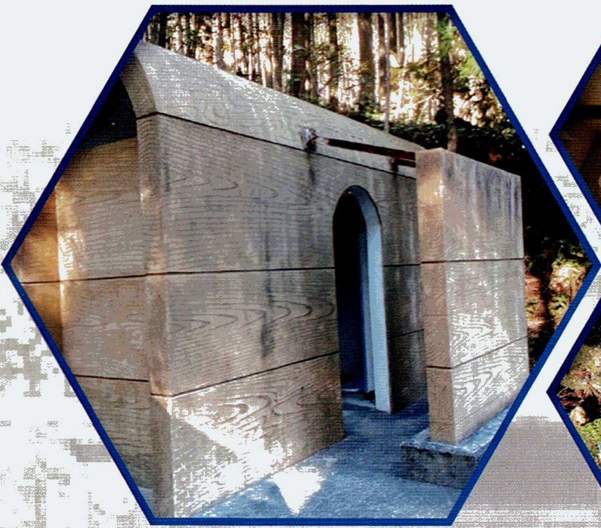
（写真・小壁&酒井 文 酒井）

あんなトイレ
こんなトイレ
ご紹介します

山のトイレ これくしょん

今号のイチオシ

湧き水で手をジャブジャブ



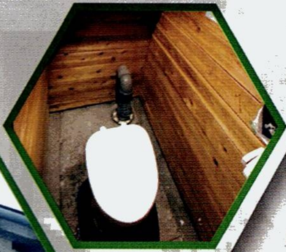
虚空蔵山（こくうぞうさん）
岩屋登山口のドームトイレ

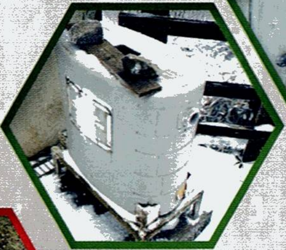
▼くみ取り式 ▼味わいのあるトイレ。虚空蔵山にはトイレが三ヶ所ありどれも特長的です。ここは湧き水で贅沢に手洗いが出来ます（酒井）

英彦山（ひこさん）
中岳・上宮横トイレ

▼バイオトイレ ▼いわずとしれた、福岡県三大バイオトイレの一つ。上宮修復作業にともない、今年の夏に一時閉鎖の予定です。

もうすぐ一時閉鎖予定！



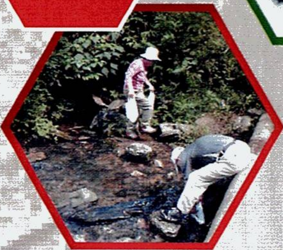


日本全国にある山のトイレこれくしょんをお届けします。

九州をメインに、あんな所、こんな所のトイレを写真とワンポイント解説で、みなさんにご紹介！

また皆様からのおすすめトイレも募集します

今は新しくなってますっ！

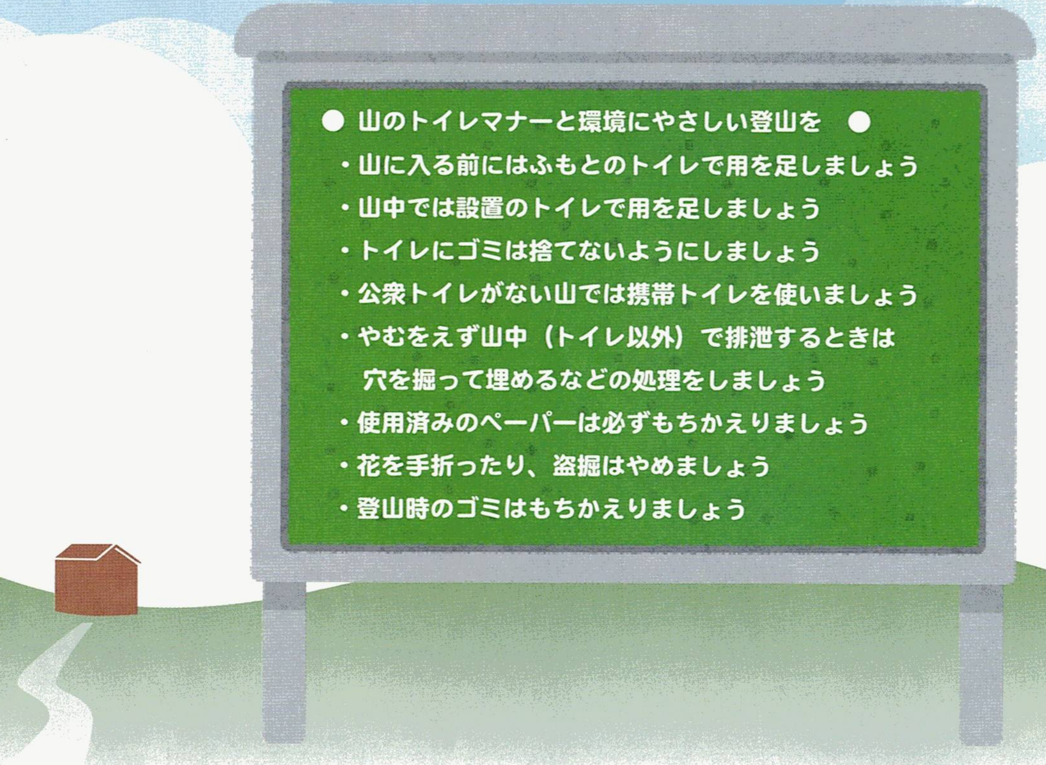


井原山（いわらやま）
水無登山口・旧トイレ

▼くみ取り方式 ▼2012年の頃の水無登山口のトイレです。今はキレイになっています。当会も時折清掃に参加。川の水で清掃をしました。 ※写真は高井さんより。

おすすめトイレ教えてください

場所・写真・おすすめ情報を添えて最終ページの連絡先までお送り下さい！



No.25

はいせつはたいせつ

山のトイレ・環境に関する情報や会員皆様の活動報告 ご意見を募集しています

みなさまの率直なご意見、ぜひともいただきたく存じます。

原稿の送り先 dj.sakai@icloud.com 又は下記の九州登山情報センター内まで

山のトイレ・環境を考える福岡協議会

運営委員事務局（山のトイレ通信担当）酒井正志

2022.6 SPRING

会費未納の方へお願い！

払込書を同封しています。ご協力よろしくお願い致します。

会計より

ブログはじめました http://yamatoiletjpn.blog.jp/

山のトイレ協議会通信　第25号

発行日：2022年6月1日

山のトイレ・環境を考える福岡協議会

〒818-0115 太宰府市内山708番 九州登山情報センター内

TEL ＆ FAX 092-928-2729(水・木曜日休)